

南海トラフ地震で四国支援検討 AMDAがシミュレーションへ

ツイート

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）は12日、南海トラフ地震の発生時に甚大な被害が予想される四国の支援の在り方を考える会議を総社市で開いた。沿岸部に位置し、有事の支援に関して協定を結んでいる徳島県美波町、高知県黒潮町へ陸路で向かうシミュレーションを11月に行うことを決めた。

シミュレーションでは総社市から美波、黒潮両町の活動拠点となる医療機関へ到着するまでの所要時間、交通規制区域を通行するために必要な警察署の標章がスムーズに交付されるかなどを確認する。AMDAの職員を中心に、関係する医療機関、自治体も協力する予定。笠岡市から海上タクシーで四国へ渡る訓練も検討している。

会議にはAMDAと災害時の協定を結ぶ総社、丸亀市や徳島、高知県の自治体をはじめ、医療機関の担当者約170人が出席。AMDAグループの菅波茂代表は「一人でも多くの命を救うため、連携を深めよう」と述べた。

これに先立ち、AMDAは両備ホールディングス（岡山市）、愛好者でつくる「牛窓ヨットクラブ」（事務局・岡山市）と災害時の物資輸送などに関する協定を締結した。

（2015年09月12日 23時01分 更新）



南海トラフ地震発生時の四国支援の方策について考える会議